

おもちゃで遊びと笑顔

ころぼっくるの家 被災地の子供に第一便

東日本大震災の被災地の子供たちにおもちゃを届ける活動に取り組んだNPO法人「ころぼっくるの家」が、宇治市横島町大幡で9日、被災地に「第一便」が発送された。



おもちゃの発送作業を手伝う子供たち

同法人は、発達に「まずきがある子供たちの療育支援に取り組んでおり、心身を育てる「遊び」の大切さに注目。被災地の子供に笑顔を取り戻してもらいたい」と、近隣におもちゃの提供協力を呼びかけた。

ロシアの小中学生も、被災した日本の子供たちのためにおもちゃを集めており、活動を知った領事館を経由して宇治に届けてくれた。タイのストーリートチルドレンは、雑貨やTシャツの販売で積み立てた義援金を、同国の支援財団を介して送ってくれた。

第一便は、おもちゃを複数詰め合わせた「おもちゃ箱」が2箱、絵本類、ロシアのぬいぐるみなどが各1箱。避難所の子供たちに遊びを提供する「遊びのキャラバン隊」が結成された岩手県立大学「岩手県盛岡市」に送った。

配送トラックが出發する前、ころぼっくるの家で児童デイサービスを利用する子供たち12人は、被災地で暮らす同年代の友達に向けて手紙を書き、ビデオメッセージで「みんなで遊んでね」と呼びかけた。積み込み作業も手伝い、遠ざかるトラックにいつまでも手を振っていた。

同法人は今後も受け入れ先を調整し、おもちゃを順次発送する。手紙とビデオメッセージも後日送付する予定だ。